

第 36 計；経済発展のスピードが異常に速い。(中華思想その 8)

－中国人は童話の「ジャックと豆の木」を読むべきだ－

中国浙江省義烏（イウ）市にある、“M”靴下製造会社は 10 年前 1 m² の店舗で靴下販売の商いを始めた夫婦が、10 年後従業員 1.5 万人雇用の大会社になり今も成長しているという企業であります。同社の創業は、次期中国の指導者になる習近平さんが浙江省の書記の時代です。因みに中国オリンピック選手の靴下はすべて“M”社の製品であります。



このような急成長会社が見られるという事態であります。

会社組織は中国共産党の組織を真似ています。特に“・・・集団”と名のつく企業はそうであります。三つの代表（農民・労働者・企業家）が江沢民の時代に採用されました。共産党の新しい支部が大企業の中に形成されたのです。私は新たな国営企業が誕生したと見ています。正に“中国新貴族”の誕生であります。会長は中国“全国人民代表”の議員です。約 500 人位いるそうです。日本で言えば、トヨタ・ホンダ・東京電力・・・の会長が衆議院議員ということになります。



そういう成功者は地元のテレビ・新聞にもよく露出します。日本の大手商社はそういう人に応援している傾向があります。資金を出資するだけではないのです。売掛金の回収率が悪く、20%程度の出資先に対して実に変な協力なのであります。日本企業も本社への報告を隠していると疑わざるを得ないのであります。今 100 万円の売掛金があったとする。翌月は 20 万円回収、今月新たに 30 万円売掛金発生、翌月 110 万円に対する 22 万円回収・・・毎月、毎月売掛金残高が増えるのです。また中国の銀行も融資残高を増やします。まさに日本のバブル時代と一緒にあり次々国内外に販売網を広げていくのであります。

しかも本社の製造設備は世界最高技術の設備を設置しています。資金繰りの心配がないからです。また一方で、負債は増えます。従業員も増え、従業員寮も増えます。私は“M”社の“S”会長に聞きました。「凄いですね、なぜ世界最高技術の設備と従業員が集められるのですか？」と、“S”会長は「まず技術力で中国の他のメーカーに勝つことです。また中国他社の寮設備をよりいい設備にすることで従業員を容易に集め

ることができる。それと私はいつも地元の共産党政府に感謝している。」と答えました。

地元政府が仮に「お金が足りない」と言ったとき、地元の他企業が1000万円寄付すると、“S”会長は一億円寄付するタイプであります。これが資金繰りに絶対的に自信をもっている背景なのです。別の税金であると思っている。その結果、地元政府は銀行に彼の会社への貸出を勧める。銀行は資金を無尽像に出すという流れです。

私は彼の会社は生き残れると思っています。販売商品は社会生活での消耗品であるからです。但し、元高になると、世界への輸出が減少するというリスクは残っています。私はその点を指摘すると、「日本で企業を買収したい。日本人のいい副社長を見つけて欲しい」と言い放ちました。凄いなと思いました。日本の国会では、何が国民に重要であるかを忘れて、うんざりするほど“政治と金”の問題を議論しています。中国では“政治と金”の問題は極端な場合は別として、一般に議論されないのが普通です。昔日本には“政商”という言葉がありました。諺にも「水清ければ魚住まず（純粹の水の中では魚も住めない。苔も生えないという意味）」があるのを思い出します。

中国における政商たちは“賄賂”は、特定の政治家に政治献金をする

のではなく、地方人民政府にたいする別の税金だと思っています。日本に於ける地方公共団体に対する寄付金です。（日本でも非課税です。）

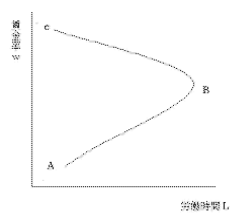
中国では地方政府が官民一体となって経済成長を果たしています。

先頃、中国国内での元の通貨量がドルで換算すると、アメリカの国内の通貨量を上回ったのであります。中国がアメリカの 1/3 とか 1/4 の通貨量であれば解かるのでありますが、私は正にハイパーインフレ（超インフレ）状態であると思うのであります。嘗てドイツが第一次世界大戦後ハイパーインフレになった時、あのヒットラーが登場しました。軍拡にはしり、第二次世界大戦でドイツは敗れ、彼も自殺するという運命を辿ります。

暴君ヒットラーを生んだともいえるハイパーインフレについてももう少しご説明いたします。

経済学に“余暇の理論”があります。ある程度の収入・資産が出来ると人間は働かなくなり、趣味とか・余暇を求めるようになり、働かずに一時間当たりの賃金を上げたくくなります。ハイパーインフレの状態です。

A→B 労働時間数が増えるに従って賃金率が上昇 B→C 労働時間数が減るに従って賃金率が上昇



ブーメランのような図

生活するための物価が上がるのであります。農民までが余暇を求めるようになります。ハイパーインフレを抑えるには、政府が国内の通貨量に規制をかけます。すると、金利が上がります。結果、住宅ローンの返済者の生活が苦しくなり、返済が出来なくなりせっかく持った住宅が銀行から強制処分されたりします。

中国共産党政府が国民に“儒教教育”を頑固に否定し、元高の国際協調を頑（かたく）なに拒否すれば、中国共産党の中華思想の終焉（しゅうえん）になる可能性があると思います。「孔子还有毛泽东已经死啦。未来的幸福在那里！ 孔子と毛沢東は既に死んでいます。未来の幸福はどこにありますか！」。

童話の“ジャックと豆の木”の話のように、豆の木が空の雲まで届くことはありません。また、中国が月まで資源を漁りに行くようなことをすると、中国以外の全世界の国々が怒りは頂点に達するものと思慮されます。

中国人の行き過ぎた中華思想に各人の“自己の良心”でもって注意するのが“儒教”であり、日本人が日本にいる中国人に“儒教の近代化された武士道精神”を教えなくてはならないと思っております。

現代中国人は“自己愛と家族愛”はどの民族より強く、しかも学習能

力が抜群に高い民族です。

その中国人が世界の国々から尊敬され愛されるには；

儒教の「仁愛」、道教の「諭（さとし）の愛」、仏教の「慈悲・慈愛」、
キリスト教の「奉仕の精神」所謂「博愛主義」に各自が目覚めなくては
ならない時が来たように思います。

“過信”は“滅びの美学”であり、武士道精神は後世に“人生の生
き様を伝える美学”があります。

2010/10/23 2010/11/13